

■ 学校の共通目標

授業作り	重 点	児童一人ひとりの習熟度に応じた学習活動を工夫する。学ぶことが明確で、学ぶ充実感があり、児童が主体的に学ぶための教育活動を推進するとともに、言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力を育成する。	中 間 評 価		最 終 評 価
環境作り		授業のユニバーサルデザイン化とICTの活用を進め、どの子にも分かりやすく、安心して参加し、協働して学ぶことのできる学習環境を整える。			

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）
1	国語				
	算数				
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月） ➔ 最終評価（2月）
2	国語	<p>学 話を聞く際には、集中して聞くとする意識が身に付いてきた。話の内容を正確に理解することがまだ十分に身に付いていない状況である。</p> <p>学 書くことに対して意欲的に取り組む児童が多い。新出漢字の学習に興味をもって取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話を最後までしっかりと聞くことができるよう指導する必要がある。大事なところを意識できるようする。 書くことへの意欲はあるが、どのように自分の考えを書けばいいのか分からぬ児童が多い。自分の思いや考えを表現するための語彙を豊かにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞く活動では、注意を喚起してから話す。大事なことをメモする練習に取り組む。 家庭学習や朝学習で、言葉遣いも含めた話すことの練習に取り組む。教科書の複写や作文用紙を使った日記指導を定期的に行い、書くことを習慣化させる。「言葉のたから箱」で多くの語彙を提示し、作文を書く際に活用できるようにする。 	
	算数	<p>学 繰り上がりのあるたし算や、繰り下がりのあるひき算の計算では、概ねの児童が計算の仕方を理解することができている。</p> <p>学 時刻と時間や長さは、理解の定着が必要といえる。</p> <p>学 文章問題を解くことが難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 数の構成や加法と減法の計算を定着させる必要がある。 生活の中で経験が足りない児童や数感覚がまだ十分に身に付いていない児童がいる。 文章を正確に読み、内容を理解することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 繰り返し計算練習に取り組み、計算力の向上を図る。 時計や物差しなどの具体物を使った学習を継続的に行い、日常生活の中でも活用できるようにする。 文章問題を解く上で、キーワードとなる言葉に注目させて、問われていることを理解した上で解くようにする。 	
3	国語	<p>学 話を聞く姿勢は定着している。話の内容に対して答える、質問する等に課題がある。</p> <p>調 新宿区学力定着度調査では、目標値を0.6ポイント、区平均正答率を4ポイント上回っているものの、領域「書くこと」、観点「主体的に学習に取り組む態度」の平均正答率が下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 語彙が少なく、言葉の意味を理解して他の言葉に言い換えることを苦手とする児童が多い。 与えられた課題や板書を書き写すなどは意欲的に取り組むが、自ら考えて文章を書くことへの苦手意識を和らげ、文章を書くことへの意欲を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 辞書を引く活動を取り入れ、話や文章で使うことを通して使いこなせる語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 協働的な学習と個別最適な学習を往還した授業を展開し、国語の見方・考え方を働きさせながら、特に書くことに重点を置いて指導する。 	
	算数	<p>学 自分の考えをノートにまとめ、発表する力は身に付いている。友達の答えから自分との考え方の違いを比較したり納得したりする力はこれから身に付ける必要がある。</p> <p>調 新宿区学力定着度調査では、目標値、区平均正答率を共に上回り概ね良好な状況であるが、「長さ・かさ」では目標値を3.9ポイント、区平均正答率を1.5ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 長さやかさでは、単位換算の力を伸ばす必要がある。 多角的に問題を解く姿勢がまだ十分身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 単位換算では、単元ごとに既習事項を振り返り、定着を図る。 タブレット端末を活用し、協働的な問題解決場面を多く取り入れ、多様的なものの見方・考え方を働きさせて多角的に課題に取り組めるようにする。 	
4	国語	<p>調 新宿区学力定着度調査では、目標値を1.7ポイント上回っているものの、区の平均正答率と比較すると2.5ポイント下回っている。領域では、「話すこと・聞くこと」については区平均正答率を上回っているが、その他は全て下回っている。特に、「文章を書く」が8.8ポイント、「言葉の学習」が8.7ポイント下回っているため、書くことと言葉の特徴や使い方に関することが課題である。</p> <p>学 話を聞くことがよくできている。しかし、友達の考え方と自分の考え方を比べたり、段落相互の関係を見付けたり、つなげたりする力を身に付ける必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文章で表現することが苦手と感じる児童が多い。また、順序立てて書いたり、物事に対して自分の考えを書いたりすることが特に課題である。 自分の考えをまとめたり、文章を書いたりすると、単調で同じ言葉を繰り返して使う傾向がある。語彙を増やしていく取り組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 辞書を引く活動を多く取り入れて、語彙数を増やす。また、自分の意見を発表したり、文で表現したりする活動を多く取り入れる。文章は、定型文や手本となる文を提示して、その表現を使いながら書かせることで、基本となる文章の書き方を身に付けられるようにする。 文章を書くときに、「マップ図」などの思考ツールを活用する。書きたいことを明確にしてから文章を組み立てていく活動を通して、順序立てて書いたり、自分の考えを書いたりできるようにする。 語彙を増やすために、教科書巻末の「言葉のたから箱」を活用し、その中の言葉を使って書く活動に取り組む。 	

	算 数	<p>調 新宿区学力定着度調査では、学年平均が目標値と区平均正答率を上回っている。しかし、「たし算・ひき算」で区平均正答率から9.1ポイント下回っている。</p> <p>学かけ算九九は定着しているが、かけ算の筆算でたし算の間違いと、位取りの間違いが多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 四則演算については、数が大きくなったり、問題数が増えたりすると、処理にミスが増える児童が多い。 基本的な計算力に課題がある。数が大きい筆算の定着が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末と学習ノートを併用して、根気強く四則演算の練習に取り組ませ、精度を高めていく。また、確かめや検算を習慣化させ、多角的に見直せるように指導を繰り返す。 		
5	国 語	<p>学感想や意見など、自分の考えをもっていてもそれを文章に表現することがまだ十分に身に付いていない。</p> <p>調新宿区学力定着度調査では、全体的に目標値、区平均正答率、全国平均を下回っている。特に「書くこと」に関しては、全国平均の半分程度の正答率、区平均正答率は18.7ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや考えを文章に表すことが難しい児童が多く、書くことに重点をおいて指導する必要がある。 漢字の学習に意欲的に取り組む児童は多いが、習得状況に個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語に限らず、各教科において「書く」活動を多く取り入れる。書くことが難しい児童に対しては、観点を与え、それを基に文章を組み立てさせる。 国語辞典を常備させ、意味調べや漢字調べを行う中で語彙の習得を図っていく。 		
	算 数	<p>学意欲的に取り組む児童が多いが、習熟は図られていない。</p> <p>調新宿区学力定着度調査では、全国平均と同程度または若干上回っているが、「图形」領域以外においては区の平均よりも下回っている。特に「変化と関係」領域においては、区の平均よりも7ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算を正確に行うことはできるが、既習事項を使って自力解決する力が不十分で課題といえる。 個人差が大きく、一斉指導では課題の解決が難しく、個別に指導が必要な場面が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決の過程を大切にした授業を行い、図などを使って解決していく経験を積ませることで、解決の方法を身につけさせていく。 朝自習や個別指導の利用と、実物投影機やタブレット端末などのICT機器を活用し、さらなる計算力の向上を図る。 		
6	国 語	<p>調新宿区学力定着度調査では、目標値を2.7ポイント、区平均正答率を4.1ポイント下回っている。「読むこと」は区平均正答率を5.2ポイント下回っているが、目標値を2.5ポイント上回っている。「書くこと」は目標値に16.1ポイント、区平均正答率を5ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを文章で表現することが苦手な児童が多い。苦手な児童の多くは語彙が少なく、簡単な言葉に言い換えることができるよう指導する必要がある。 漢字を読むことができるが、文章を「書くこと」を苦手とする児童が多く、文章を組み立てて書くことに取り組む必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の導入で意味調べを行う。 文章を書く前に構成や観点を整理する。 読書活動を行い、読書カードに必ず短い感想を書かせる。 文字数を指定し、短作文を書く練習をする。 授業の導入で新出漢字の筆順、部首等の学習を行い、家庭学習では、書き取りの課題を毎日行う。 		
	算 数	<p>調新宿区学力定着度調査では、目標値を5.2ポイント上回っているものの、区平均正答率を1.3ポイント下回っている。内容別に見ると、「合同」の問題において目標値に2.5ポイント、区平均正答率に0.5ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた条件で、「合同」な图形を正確に作図することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 合同な图形を作図できる条件を復習する。 条件が異なる出題パターンで、合同な图形をかく練習を行う。 		
音 楽		<p>学意欲的に表現や鑑賞の活動に取り組める児童もいるが、個別の支援を必要とする児童も多い。特に、歌唱や器楽の活動で、苦手とする児童が数名いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカやリコーダーの活動で、運指の習得など個人差が大きい。 歌唱を苦手とする児童の意欲を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 実物投影機やタブレット端末などのICT機器を活用して、リコーダーや鍵盤ハーモニカの運指を視覚的に分かりやすく説明する。また、技能の定着を図るために、スマールステップで段階的に取り組む。 歌いやすい音域に移調したり、取り組みやすい曲を選曲したりして意欲を高めていく。 		
図 工		<p>学意欲的に取り組む児童が多い反面、支援が必要な児童もいる。創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりすることに課題がある。また、技術面の基礎・基本の定着が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に意欲をもって課題に取り組んでいるが、課題に向き合うことができていない児童や、つくりだす喜びを味わうことができない児童の意欲を高める必要がある。 自分の作品に愛情をもてず、創作意欲の低い児童に対する支援が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別に課題理解ができるように、見本を使って視覚化したり、やることに順序をつけて板書して進捗状況を把握やすくしたりする。 タブレット端末などのICT機器を活用して、児童がお互いの作品を鑑賞し合い、よさや工夫を認め合う活動を通して、自分の作品に愛情をもてるようにする。 		
特 支		<p>学自分の考えを相手に伝わるように表現することが難しい。</p> <p>学音読や漢字の書き取り、ローマ字の読み書きの力に課題があり、学習への意欲を高められない状況がある。</p> <p>学一定時間、集中して活動に取り組むことに課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを明確にすること、相手への伝え方を体験しながら身に付けていくことが必要である。 課題の解決に向け、自分に合った学習方法を選択する力が必要である。 姿勢を保持し、集中できる時間を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> メモを残したり、事前に練習したりすることで自分の考えを明確にする。ロールプレイを通して体験的に、適切な伝え方を練習する。 タブレット端末などのICT機器を活用し、個に応じた課題解決の方法で学習する。 学習の内容や取り組み時間をスマールステップで組み立てていくことで、児童が集中する時間を意図的に高めていく。学習前に運動を取り入れるなど、個に応じた集中力の高め方を取り入れる。 ことばや表現の課題解決をねらいとした小集団活動に年間を通して計画的に取り組む。 学習意欲の向上や学習用具の準備などをねらいとする学習に学級担任と連携して取り組む。 		